

年間第33主日

マタイ 25・14-15、19-21

2014.11.16 9:30 ミサ
イエズス会 柴田 潔神父

朗読された箇所は、預けられたお金をどうするかの話です。思い浮かんだのは息子さんが神父さんになったあるご家族のお話です。その方は、修道会に入る前に働いて貯めた通帳をお母に預けられました。家族に何かあった時に使ってくれたらと思っていたそうですが、お母さんの思いは違いました。息子さんが修道会をやめて結婚することを期待して、結婚資金を作ろうと財テクを始めました。証券会社に一日に何回もアクセスして、株や外貨をチェックします。少し上がっては売って、下がったら、また上がるの待つのではなくて傷口が浅いうちに売る。そして、10年の間に車一台分も増やしました。それなのに、息子さんは修道会をやめる様子もない。期待が裏切られてしまったお母さんは、息子さんに相談してきました。「わたしの歯はもう弱いから、インプラントしたいんだけど、増やしたお金をそのために使ってもいいでしょうか？」と……。息子さんは「もちろん、そうしてください」と答えたそうです。元手は息子さんの貯金かもしれないけれど、お母さんが増やしたお金だし、自分を育ててくれたお礼を表せないでいたので、そのために使ってくれたらうれしい、と。お母さんはインプラントが終わってから「食事がおいしく食べられるようになった」と感謝されたそうです。

聖書の話とこのお母さんの話は、預けられたお金を積極的に増やした、という点では重なりますが、「わたしたちの生き方とぴったりか？」という点、違いもあるようです。信仰の話、神の国を作るとなると、「具体的にどれだけ増やすか？」が中心ではなくなると思います。一生懸命してもどれだけ増えたか分らなかったり、はじめから計算を度外視することがあるからです。福音宣教では、人の目が行き届かなかったり関心が薄くなっていることを、むしろ大切にすることが多いでしょう。

昨日は、福島のある修道会のシスターとお会いして、福島での年末のボランティア（わたしはもうオーストラリアなので行けないのですが、山口からのグループのため）について打ち合わせをしてきました。出国前でばたばたしていますが、2011年の冬休みから続いてきたボランティアは途切らせたくないで、計画しました。このシスターは、教会まつりで天使の森で販売した福島のゆべしなど、おいしいお菓子をご紹介いただいた方です。ちなみに、福島デスクの

Facebook の11月7日号に、教会まつりの写真が掲載されているのでご覧ください。朝賀さんではなくてわたしが撮った写真なので、上手ではないですが載っています。この、10月の教会まつりにしても、被災地への支援であったり、障がいのある方の施設といった、関心が向きにくい方への支援でした。たくさんのお金の手元に残ってうれしいというよりも、手放すためのバザーでした。このように、「増えることを計算するのではなくて、むしろ、なけなしの自分を与えること」が、わたしたちの生き方です。「ありったけの自分を与えていくこと」。そのことが、神の国を作るためには大きな投資になります。思ってもみなかったところで増えて実を結んでいきます。そのことに、わたしたちは期待して、自分を賭けています。惜しみなく人を与える人生をこれからも力強く歩みましょう。

さきほどのご家族の話に戻すと、よく工夫される現実的なお母さんから、見えない神の国を目指す息子さんが育ちました。それぞれが、増やそう、膨らませようとされてきました。みなさん個人にとって、また家族にとって、そして高円寺教会の信仰共同体として、神様からの恵みを増やせることを願ってミサを続けましょう。